

免許状教科	中学校 1 種（社会）・高等学校 1 種（地理歴史・公民・商業）		
科目名	学校と教育の歴史	科目分類	教職科目
			経済学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	History of School and Education	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 年 <input type="checkbox"/> 2 年 <input type="checkbox"/> 3 年 <input type="checkbox"/> 4 年
ふりがな	いちほら みつまさ	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	市原光匡	修得単位	2 単位
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
授業のテーマ	主として近現代の西洋・日本の教育の歴史を学ぶとともに、教育史研究の意義について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解し、説明できること 2. 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解し、説明できること 3. 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解し、説明できること 4. 教育の歴史を学ぶことの意義を理解し、教育史の知識を活かせること 		
授業概要	近代以降を中心として、教育の理念および実践を中心とした教育の歴史を、それぞれの時代情勢やその変化に即して検討する。さらに、教育史研究の意義をふまえたうえで、教育史的な視点から教育の問題を検討する素地を養うことを目指す。		
授業計画			
第 1 回	ガイダンス		
第 2 回	中世以前の西洋の教育		
第 3 回	実学主義と教育－ラトケとコメニウス		
第 4 回	近代教育の思想と実践－18 世紀西洋の教育（1）子どもの発見		
第 5 回	近代教育の思想と実践－18 世紀西洋の教育（2）近代公教育の思想		
第 6 回	公教育と教育思想－19 世紀の教育（1）学校の普及と拡大		
第 7 回	公教育と教育思想－19 世紀の教育（2）教育の方法論		
第 8 回	新教育の理念と展開－イギリス・フランス・ドイツの新教育運動		
第 9 回	新教育の理念と展開－アメリカの進歩主義教育運動その他		
第 10 回	日本の教育史－古代・中世日本の教育		
第 11 回	日本の教育史－近世日本の教育		
第 12 回	日本の教育史－近代日本の教育		
第 13 回	日本の教育史－大正自由教育運動と戦間期の教育		
第 14 回	20 世紀以降の教育－西洋各国の教育改革		
第 15 回	20 世紀以降の教育－戦後日本の教育改革		
第 16 回	定期試験		
授業時間外の学習	ある教育思想や制度は、全く何もないところから突然湧き上がってきたものではなく、その成り立ちは社会政治的・経済的な背景をもって理解されるものである。つまり、歴史一般の知識が必要となるので、授業の各階に即して高校までの世界史、日本史の授業をふりかえり教科書等を読みかえし、各国各時代の出来事や特徴をおさえておくこと（1.5 時間程度）。また、授業で取り上げた内容はその都度確認しておくこと（1.5 時間程度）。		
履修条件	特になし		

受講のルール	
テキスト	授業のレジュメ（要約）のプリントを配布
参考文献・資料	必要に応じて授業中に適宜指示する
成績評価の方法	平常点 30%、定期試験 70%の比率で評価する。なお、習熟度の確認のために複数回小テストを実施するが、評価の対象外とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30
成績評価の基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	さまざまな人物が登場するが、人物ごとに思想や実践をまとめておくと、その後の授業や教育学全体の理解に役立つ。